



たしかな学力を身に付け、自らの暮らしをよりよくしていこうとする 子供を育てるために

(1) 県の学力調査による子供の実態把握

4月実施の学力調査は学校ごとの学力の実態や経年変化を把握することが目的なのですが、本校では子供一人一人の学力の伸びや不足についても把握し、授業改善を図るための手立てとしています。

今年は、昨年度と比較して全体的な伸びが認められたのですが、学年ごとに偏りがあること、残念ながら学習内容が未定着なまま進級している子供がいることが分かってきました。そこで、学力調査を基に、子供たちに必要な学習活動を明らかにして、日々実践していくようにしました。同時に、子供の特徴に応じた声かけを意識するようにし、一人一人が自身の課題に向き合いながら学力向上を進めていくことができるようにしています。

* 学力調査用紙(国・算)は、今年1年間、職員室の棚に保管します。指導の状況に応じて、いつでも取り出して確認できるようにするためです。調査用紙の持ち帰りを希望される場合は担任に申し出てください。家庭でご覧になった後、再度、学校にお戻りいただきたいと思っております。最終的には、年度末の3月に返却する予定です。

(2) 繰り返しによる基本事項の定着と深化

学力の定着には繰り返しが不可欠です。例えばある学年では、助詞「てにをは」を適切に使えない子供が多数いることが分かりました。そこで、毎日「三行日記」を書くことにしました。習った漢字や助詞を確実に使って文章を書く経験を継続してきたことで、助詞の理解が曖昧だった子供も、次第に正しく使うことができるようになってきました。全校としては、教材文を何日もかけて繰り返し読んだり、継続的に対象物を観察したりするなど、学習活動の繰り返しを心がけることで、微妙な違いを読み分けることのできる識別力や洞察力を備えた子供に育つよう授業改善に取り組んでいます。

(3) 研究授業の実施

本校教員は、子供の力を高めるための授業について継続的に研究しています。特に2学期は学力向上を推進するための学期として、それぞれの教員が授業研究を実施しながら、互見を心がけ、学校全体としてよりよい授業が展開されていくようにする予定です。そして、11月5日には、富山県小学校教育研究会の国語科指定による研究会を開催し、県内の先生方を招いて研修を深めます。

(4) 環境づくりによる学びの習慣化

本年度は、学びが語彙力を高めたり、言葉により親しんだりするために、プレイルームや階段など校内の各所に、詩や単文を掲示するようにしました。学習の参考になるような詩や暮らしの励みになるような言葉のキーワードなど、学年の発達段階も考慮しながら掲示しています。また、昼の校内放送でも、教員や委員会の子供たちが詩の朗読を計画するなど、視覚・聴覚に働きかける学習環境の充実に努めています。

< 学習発表会の変更 >

本年度は学力向上を重点的に進めるという主旨から、2学期の学習発表会を行わないことにしました。3学期はクラスごとの学習参観がありますので、子供一人一人の成長に光を当て、1年間の学習の成果を発表する機会にしたいと考えています。これは、発表会に向けて費やしてきた膨大な練習や準備の時間を通常の授業時間に割り当て、基本事項の定着など授業の中で子供と向き合う時間を充実させていきたいからです。

ただ、学校としても子供たちに集団で表現する機会や感動を共有する経験はさせたいと考えていますので、今年は、児童集会の中に学年発表を位置付けることにしました。短時間ではありますが、保護者の皆様には、学年の子供たちが心を一つに発表する姿や委員会の子供たちが中心になって自分たちで全校集会を運営していく姿をご覧いただき、声援を送っていただければ幸いです。